

優秀映画鑑賞推進事業【懐かしの名画劇場】



日本映画六〇年代の新しい波

〈日本のヌーヴェルヴァーグ〉

35ミリフィルム上映

鑑賞券【1作品】 **200** 円
【通し券】 **700** 円
各回定員 **300** 名

※10月16日(木)～なくなり次第販売終了します。

<鑑賞券販売所>

松山市総合福祉センター(若草町8-2)
北条社会福祉センター(河野別府937-1)

松山市総合福祉センター

令和7年12月6日(土)

一九六〇年前後に登場した、戦後の若き映画監督たちによる革新的な作品群



豚と軍艦／今村昌平 9:00～
情炎／吉田喜重 11:10～

少年／大島渚 13:50～
心中天網島／篠田正浩 15:50～



主催:社会福祉法人松山市社会福祉協議会／マネキネマ／国立映画アーカイブ 後援:松山市

特別協力:文化庁／一般社団法人日本映画製作者連盟／全国興行生活衛生同業組合連合会／松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／株式会社 KADOKAWA

お問い合わせ:TEL 089-921-2111/FAX 089-941-4408(松山市社会福祉協議会)

豚と軍艦

9:00～10:50

監督：今村昌平 脚本：山内久 撮影：姫田真佐久 音楽：黛敏郎

出演：長門裕之、吉村実子、南田洋子、小沢昭一、西村晃、加藤武、丹波哲郎、菅井きん

横須賀を舞台に、アメリカ軍基地の残飯を使った養豚で一儲けを狙う落ち着きのないチンピラの欣太と、彼を慕う春子の無軌道ではかない恋の行方を描き、安保体制下にある敗戦国日本の姿をえぐり出した風刺劇。本作でデビューした吉村実子が力強いヒロインを好演。独創的な演出や、撮影所内に丸ごと再現された「どぶ板通り」のセットが圧巻。今村昌平の作風は、しばしば「重喜劇」とも称され、人間の泥臭いエネルギーを発散する映画が多いが、その本格的な始まりとなった。(1961 年／白黒／シネマスコープ／108 分 日活)

情炎

11:10～12:50

脚本・監督：吉田喜重 原作：立原正秋 撮影：金宇満司 音楽：池野成

出演：岡田茉莉子、木村功、高橋悦史、しめぎしがこ、菅野忠彦、南美江

原作は立原正秋の同名小説。社長夫人として愛のない結婚生活を送っている女性が、母の情人だった男と再会し、自らもその男を愛し母と同じ道をたどりはじめるといふ物語を、吉田喜重は性を主題に、女性側から追究している。「吉田の映像表現が、よりいっそう自由に、そして大胆に追及されており、それが私自身にも演技することの不思議な魅力、その奥深さといったものを改めて感じさせる、思い出深い作品」と、吉田の妻でもある岡田茉莉子は本作について回想している。(1967 年／白黒／シネマスコープ／97 分 現代映画社)

少年

13:50～15:30

監督：大島渚 脚本：田村孟 撮影：吉岡康弘、仙元誠三 音楽：林光

出演：阿部哲夫、渡辺文雄、小山明子、木下剛志

車にわざとぶつかり言いがかりをつけて金銭をせびる「当たり屋」の少年とその家族を、実際に起きた事件を基に描く。戦後の日本社会で自分の居場所を見つけれず家族を連れて全国を放浪する傷痕軍人の父親。少年は、そんな父や継母から酷使されても、この家族という共同体が崩れないように自分の体を傷つける「当たり屋」を続けていく。日本の国家や枠組みを批判的に描いてきた大島渚の思想が見事に映像化された代表作。キネマ旬報ベストテン第 3 位。(1969 年／カラー／シネマスコープ／97 分 創造社＝ATG)

心中天網島

てんのあみじま

15:50～17:35

監督：篠田正浩 原作：近松門左衛門 撮影：成島東一郎 脚色：富岡多恵子、篠田正浩、武満徹 音楽：武満徹

出演：中村吉右衛門、岩下志麻、滝田裕介、小松方正、加藤嘉、藤原釜足、浜村純、左時枝

学生時代から古典芸能の研究を志していた篠田正浩の「新しい解釈」で、浄瑠璃の伝統性と 20 世紀芸術である映画との創造的な葛藤が結実。低予算を逆手に斬新な美術と演出で、主人公が妻を捨て遊女との情死行に至るまで愛の情念が狂おしく燃える様を描く。この物語を脚本化するにあたり、詩人作家の富岡多恵子と、音楽も担当した武満徹の協力を仰いでいる。キネマ旬報ベストテン第 1 位、篠田の妻でもある岩下志麻が、遊女の小春と妻のおさんの二役を演じ、女優賞を受賞している。(1969 年／白黒／スタンダード／103 分 表現社＝ATG)